

メイダイ・アングル



男全共闘

どこへ行く

六百二十一人、全学バリエーション活動以来、一ヶ月を過ぎようとしている。神田・和泉・生田の三地区では二〇〇余の学生が泊り込み、昼は討論や自主講座に専念する学生も多い。しかし、何といっても最終する人数が少ないためキャンパスには人影がまばら、七月三日の嵐に続いて、十二日に集まったメンバーは半減してしまった。例年よりも一ヶ月早い。夏休みがおとずれたのだ。「全共闘を認める」「イヤだめない」に賛同した三百二十一人は十五時間におよぶ全学級の賛同の影響で、理系一人、学部長二人と識に甘えない全員の出席率。そして全共闘は「大学当局相手にせよ」の方針を打出した。アッセンブリの先陣に立つ全学共闘会代表・福田直人「その行く手は果しなく」。